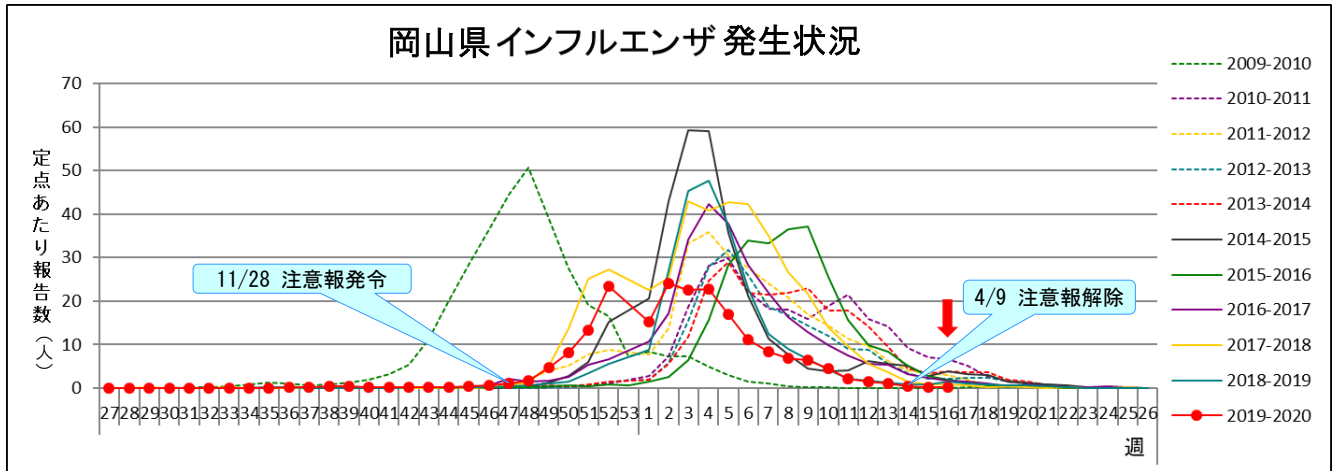


岡山県 インフルエンザ発生状況

(2019/20 年シーズン流行のまとめ)



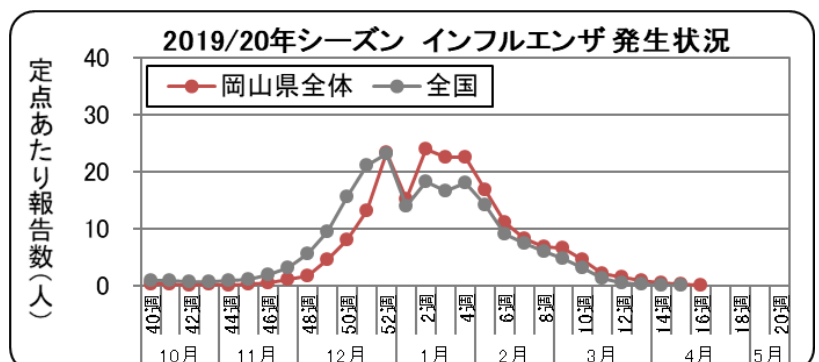
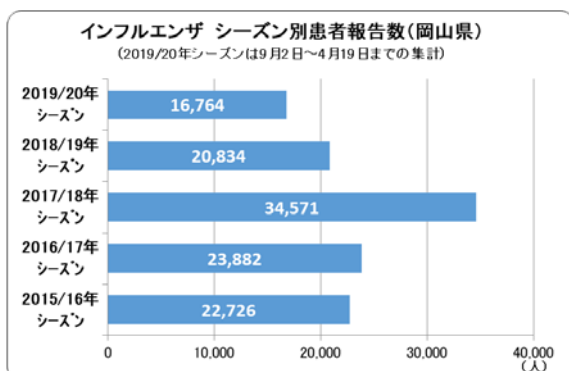
※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ～ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

2019/20 年シーズン(2019/9/2～2020/8/30)のうち、2020 年 4 月 19 日までの岡山県におけるインフルエンザの発生動向をまとめました(県内 84 定点医療機関報告)。

今シーズン、岡山県の患者報告数は、16,764 人となり、過去 5 シーズンで最も少ない報告数となりました。2019 年第 36 週(9/2～9/8)に初めての患者が報告されてから、散発的に患者が発生しました。第 47 週(11/18～11/24)には定点あたり 1.15 人となり、岡山県の注意報発令基準である定点あたり 1.00 人を上回ったことから、11 月 28 日に「インフルエンザ注意報」を発令しました。過去 10 シーズンと比較すると、2009/10 年シーズンに次いで 2 番目の早さで流行期に入り、その後、流行が徐々に拡大しました。

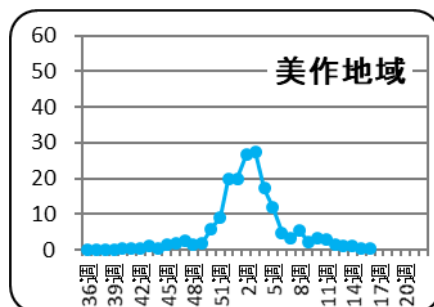
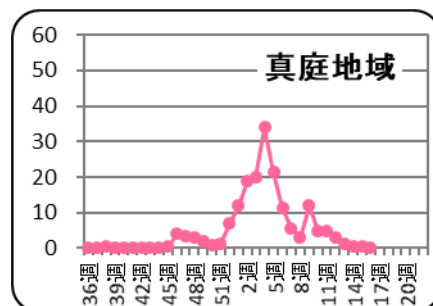
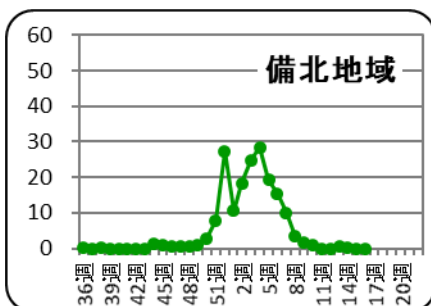
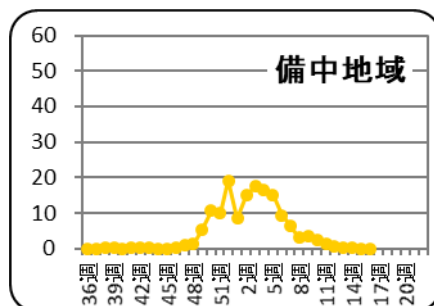
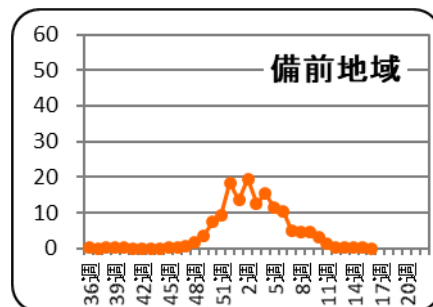
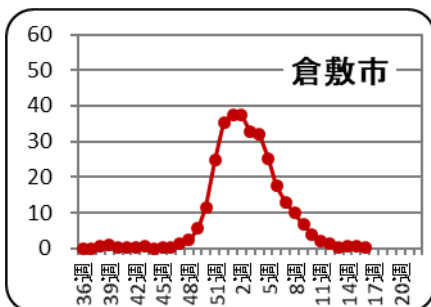
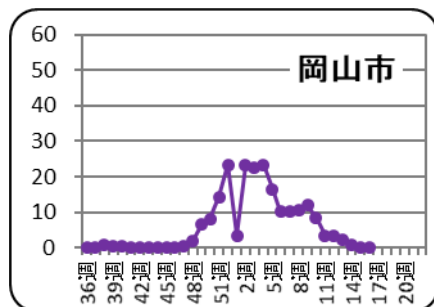
2020 年第 2 週(1/6～1/12)の定点あたり 24.01 人をピークとして、第 4 週(1/20～1/26)以降、警報発令基準の 30.00 人を超過することなく患者数は減少に転じました。警報発令に至らなかったのは、2010/11 年シーズン以来 9 シーズンぶりとなります。その後、第 13 週(3/23～3/29)には 0.98 人、第 14 週(3/30～4/5)には 0.45 人と、2 週連続して定点あたり 1.00 人を下回ったため、県内に発令していた「インフルエンザ注意報」を 4 月 9 日をもって解除しました。

全国では、2019 年第 37 週(9/9～9/15)に一度定点あたり 1.17 人となりましたが、これは沖縄県での局地的な流行による影響を強く受けたものとされ、流行入りとは見なされませんでした。その後は第 39 週(9/23～9/29)から定点あたり 1.00 人未満となっていました。第 45 週(11/4～11/10)に定点あたり 1.03 人となり、全国的な流行の指標である 1.00 人を上回ったため、流行シーズンに入りました。その後、第 52 週(12/23～12/29)に 23.24 人となり、流行のピークを迎えました。以降、患者数は若干の増減をしながら減少し、2020 年第 12 週(3/16～3/22)には定点あたり 0.54 人となり、1.00 人を下回りました。



1. 地域別発生状況

地域別でみると、2019年第36週(9/2～9/8)からすでに散発的に患者が報告され、全県的に流行が拡大していきました。第47週(11/18～11/24)には、流行開始の指標値(定点あたり1.00人)を超え(1.15人)、県内全域で流行期に入りました。その後、患者は増加をつづけ、各地域のピーク時の定点あたり報告数は、岡山市23.45人(第4週)、倉敷市37.56人(第1週)、備前地域19.47人(第2週)、備中地域19.17人(第52週)、備北地域28.50人(第4週)、真庭地域34.00人(第4週)、美作地域27.50人(第3週)でした。各地域でピーク時期にばらつきはあったものの、第4週以降は各地域とも増減を繰り返しながら減少しました。



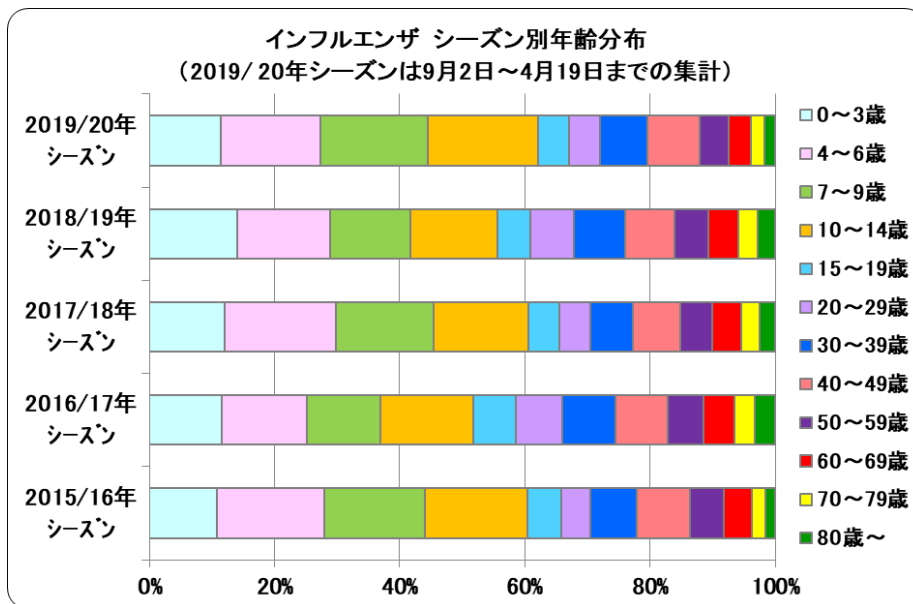
※感染症発生動向調査は、岡山県を7つのブロックに分けて情報収集しています。



- ・岡山市
- ・倉敷市
- ・備前地域(オレンジ)
- ・備中地域(黄)
- ・備北地域(緑)
- ・真庭地域(ピンク)
- ・美作地域(青)

2. 年齢別発生状況

年齢別割合は、10～14 歳(17.7%)、7～9 歳(17.1%)、4～6 歳(16.0%)、0～3 歳(11.4%)の順で多かったですが、4～14 歳ではほぼ同程度の割合でした。昨シーズンと比較して、4 歳～14 歳の年齢層の割合が増加しました。



※インフルエンザシーズンは、第 36 週から翌年第 35 週までを 1 シーズンとして集計しています。

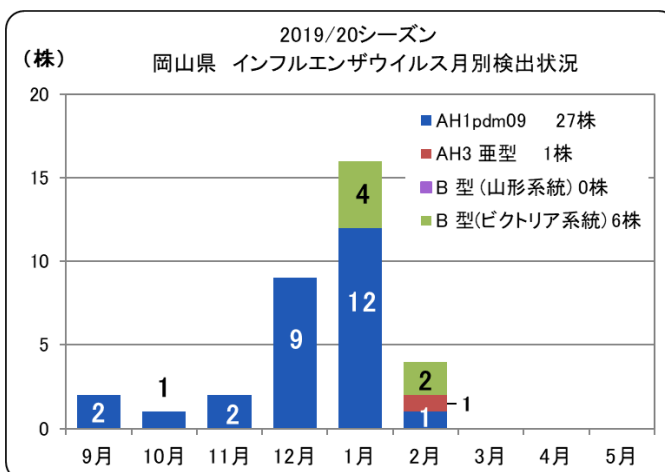
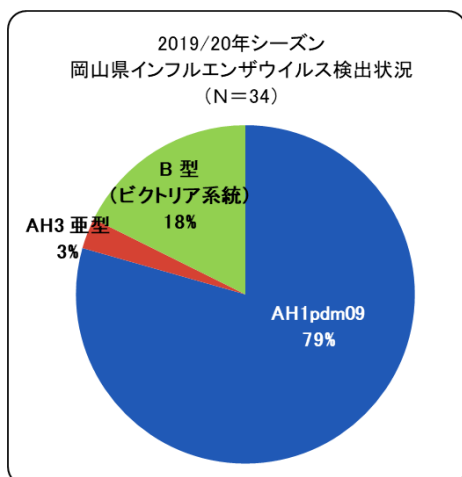
3. インフルエンザウイルス検出状況

今シーズンのうち、2020 年 4 月 19 日までに岡山県環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルス 34 株の内訳は、AH1pdm09 が 27 株(79%)で最も多く、次いで B 型(ビクトリア系統)6 株(18%)、AH3 亜型 1 株(3%)でした。昨シーズンは、A 型が主流で、シーズン初めは AH1pdm09、その後は AH3 亜型が流行しましたが、今シーズンは、AH1pdm09 が主流でした。

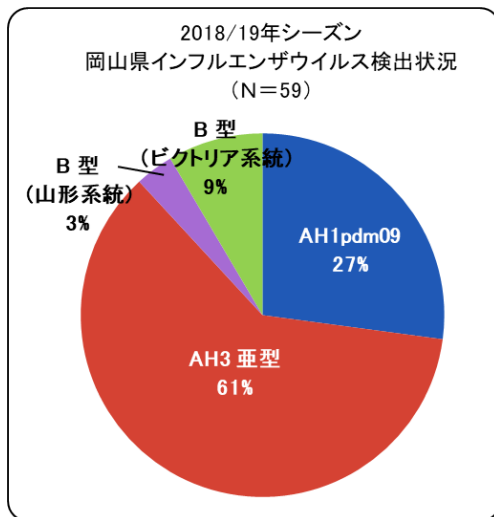
月別検出状況は、AH1pdm09 が 9 月から検出され始め、12 月までは AH1pdm09 のみでしたが、1 月から B 型(ビクトリア系統)の検出が見られました。

全国で今シーズン検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09 4,508 株(88.0%)、AH3 亜型 117 株(2.3%)、B 型 481 株[ビクトリア系統 474 株、山形系統 3 株、系統不明 4 株](9.4%)、C 型 13 株(0.3%)、A 型亜型不明 4 株(0.08%)の順でした。昨シーズンは、1 月初旬までは 2 種類の A 型(AH1pdm09 および AH3 亜型)がほぼ同程度流行し、1 月中旬以降は AH3 亜型が主流となりましたが、今シーズンは、AH1pdm09 がシーズンを通して主流となりました(2020 年 4 月 20 日現在)。

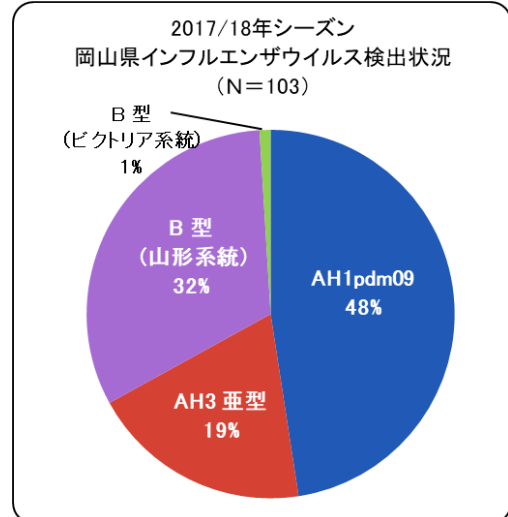
【2019/20 年シーズン】



【2018/19 年シーズン】

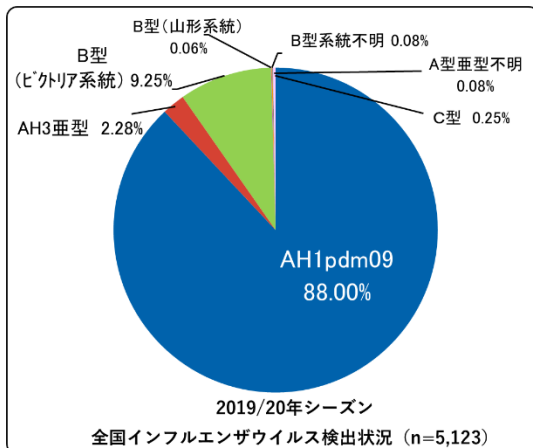


【2017/18 年シーズン】

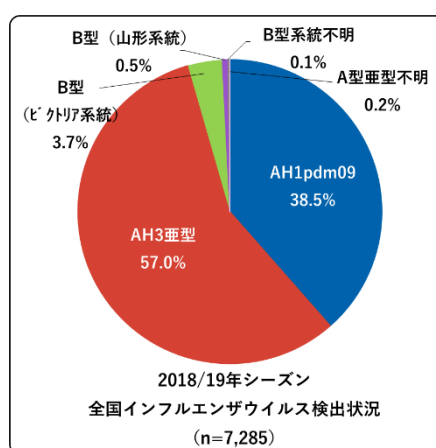


＜全国のインフルエンザウイルス検出状況＞

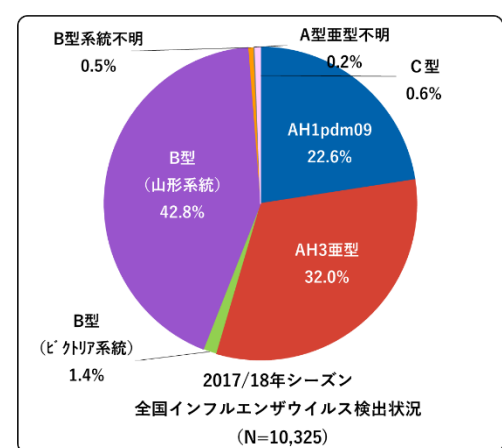
【2019/20 年シーズン】



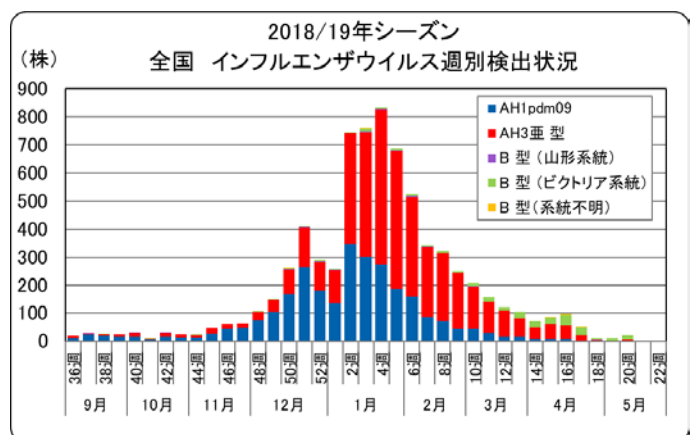
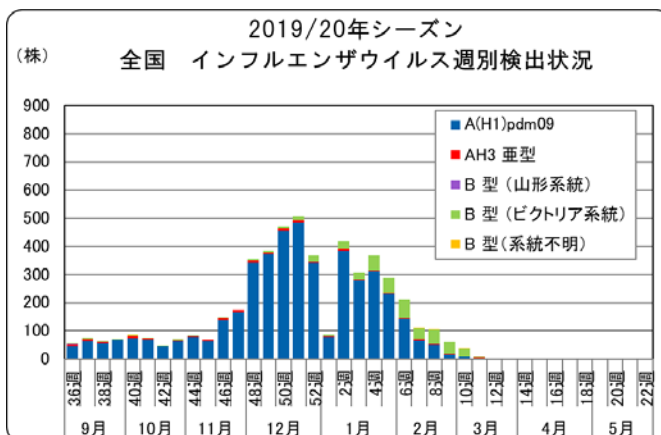
【2018/19 年シーズン】



【2017/18 年シーズン】



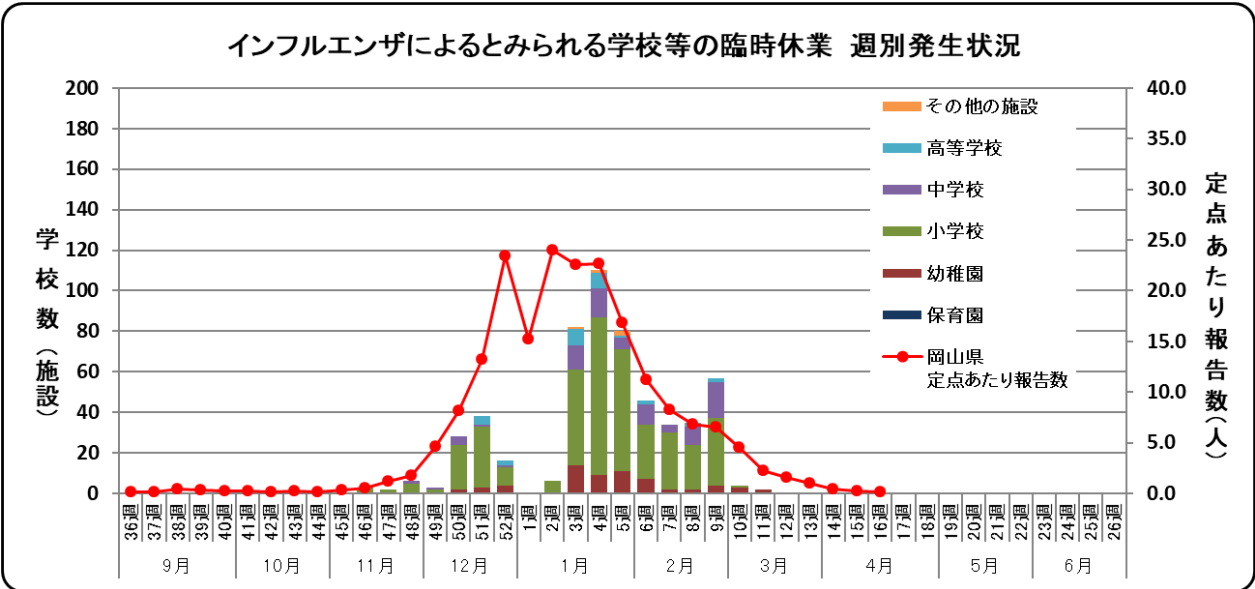
2019/20 年シーズンは
2020 年 4 月 20 日現在



[インフルエンザウイルス分離検出状況（国立感染症研究所）](#)

4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

今シーズンのうち、2020 年 4 月 19 日までのインフルエンザによるとみられる臨時休業は 555 施設で、昨シーズン(660 施設)より減少しました。施設別では、保育園 0 施設、幼稚園 64 施設、小学校 376 施設、中学校 82 施設、高等学校 29 施設、その他 4 施設でした。初発は 2019 年 9 月 30 日で、昨シーズン(9 月 26 日)とほぼ同じ時期の報告となり、今シーズンのピークには 1 週間に 110 施設の報告がありました。



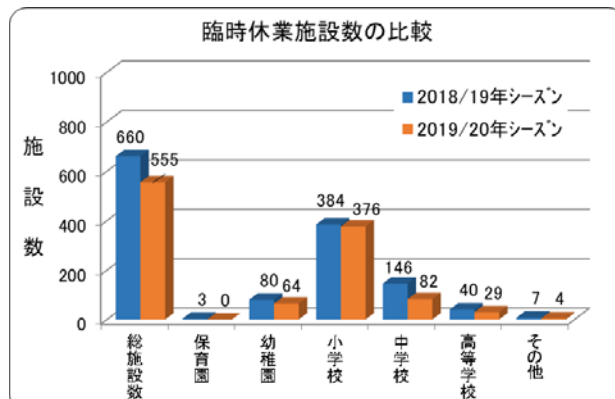
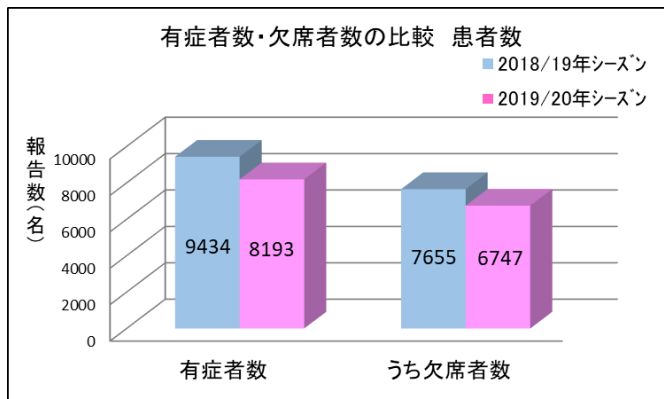
1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

※ 地域名は、保健所管轄地域を表しています

地域名*	有症者数	うち欠席者数	施設数合計	休園・休校	学年閉鎖	学級閉鎖	初発年月日
岡山県全体	8,193	6,747	555	17	124	414	R1.9.30
岡山市	3,944	3,239	232	3	29	200	R1.9.30
倉敷市	1,586	1,347	115	1	10	104	R1.10.15
備前地域	721	622	63	1	18	44	R1.11.21
備中地域	961	752	72	2	24	46	R1.11.11
備北地域	167	140	16	5	8	3	R1.12.19
真庭地域	239	184	18	3	14	1	R1.11.13
美作地域	575	463	39	2	21	16	R1.10.8

2) 臨時休業施設数の内訳 累計:555 施設

	保育園	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	その他
施設数	0	64	376	82	29	4



5. インフルエンザによる入院患者報告数(県内基幹定点 5医療機関による報告)

今シーズンのうち、2020年4月19日までのインフルエンザによる入院患者数は、133名であり、昨シーズン(267名)のほぼ半数となりました。週別では、第2週(1/6～1/12)に入院患者数が今シーズン最多の21名となりました。今シーズンの70歳以上の入院患者数は、55名であり、入院患者数全体の41%を占めました。

また、今シーズンのインフルエンザ脳症(第5類感染症の全数把握対象疾患である急性脳炎)の届出において、病原体としてインフルエンザウイルスの記載があるもの)の報告は、岡山県では今シーズンは5名(2017/18年シーズン:4名、2018/19年シーズン:3名)と、例年と同程度の報告数となりました。全国では250名が報告され、過去2シーズンの同期間の報告数(2017/18年シーズン:170名、2018/19年シーズン:231名)を上回っていました。

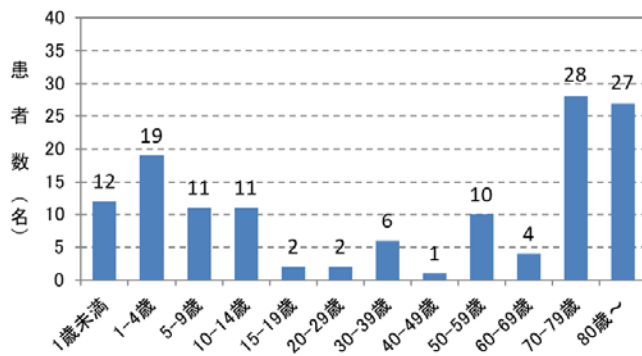
岡山県では今シーズンのインフルエンザ脳症はすべてインフルエンザA型を病原体とするものであり、全国においても、インフルエンザA型を病原体とするものが89%を占めていました。

【2019/20年シーズン(2019年9月2日～2020年4月19日)までの入院した患者の累計数】

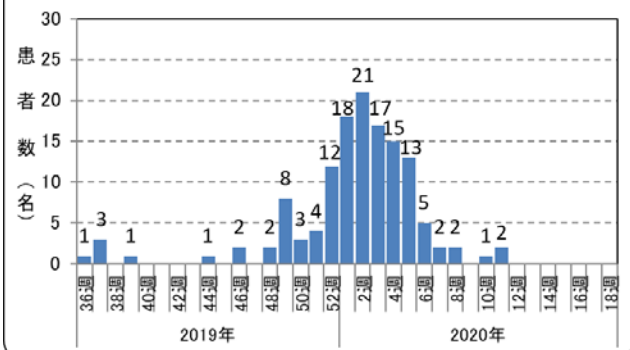
年 齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数	12	19	11	11	2	2	6	1	10	4	28	27	133
ICU入室	2		1				1		3		5		12
人工呼吸器の利用	1	3	3						2		4	2	15
頭部CT検査(予定含)	2	3		1	1		4		1		3	1	16
頭部MRI検査(予定含)		4	2	4	1		2			1	3	1	18
脳波検査(予定含)				1									1
いずれにも該当せず	8	9	7	7	1	2	2	1	7	3	18	23	88

*重複あり

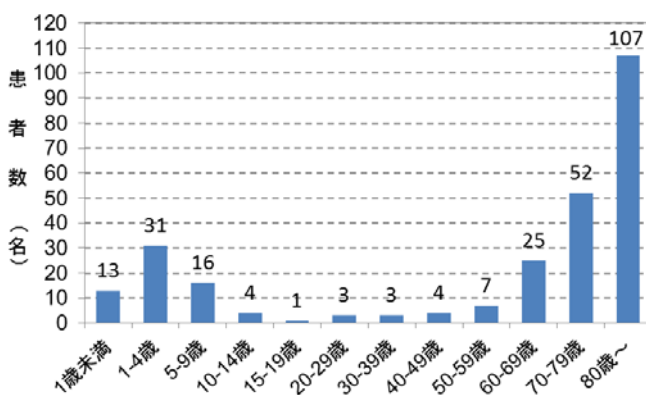
2019/20年シーズン 年齢別入院患者数



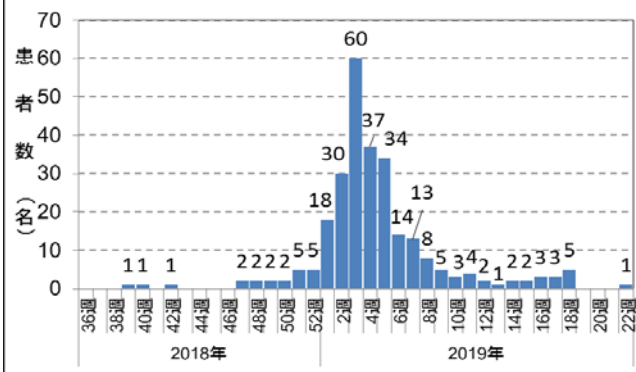
2019/20年シーズン 週別入院患者数の推移



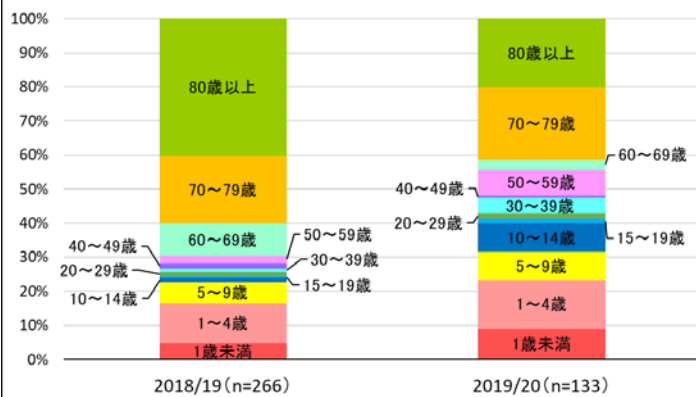
2018/19年シーズン 年齢別入院患者数



2018/19年シーズン 週別入院患者数の推移



インフルエンザによる入院患者の年齢階級別比較



(名) シーズン別インフルエンザ脳症報告数推移(全国)

